常願寺川の特徴

　常願寺川は、立山連峰南部の急峻な山々を水源としており、豊富な雪解け水に恵まれています。その一方で、大雨になると、短い流路（５６km）の割に河川の水量も多いため、平野部の川幅は広くとられています。また、源流から河口までの標高差が3000mもあるため、上流部は急流になり、平野部へ大量の土砂を流し込みます。このため、平野部で河口から上滝まで川をさかのぼると、礫の大きさの変化がよくわかります。河口左岸側には、砂鉄の密集場所があり、容易に砂鉄を採取できます。この川は、県内の他の川に比べて、川原へ降りやすい場所が多く、学校からの距離に応じて観察場所を選択できます。川沿いでバスを駐車するスペースにも恵まれていますので、時間と移動手段が確保されれば、積極的に観察を計画してみましょう。

上流（称名滝）

上流で合流する支流（亀谷付近和田川）

中流（常盤橋）

河口